

「自助」「共助」「協働」で災害に強い街づくりをめざそう！ 岸根町町内会自主防災だより（第23号）

2024年（令和6年）7月 自主防災部発行

連日、猛暑の日が続いています。梅雨明けも間もなくですね。今回は、**非常時のトイレ問題**について考えてみませんか？

普段では、水道管破裂事故や震災時などでトイレが使用できない状況になることも予想されます。下水管などに被害がないことやトイレが全く使えないことを想定して、事前対策などについて考えてみました。



1 日ごろからできる事前対策

(1) お風呂などの残り湯を確保しておく。

水洗トイレは、お水が必要です。お風呂の残り湯やペットボトルでの水の備蓄を普段から用意しておきましょう。

(2) 全くトイレが使用できない状況への対応には、簡易トイレなども用意しておくことも必要です。

(3) トイレトーパー、乳幼用の紙おむつ、お年寄りなどの成人用の紙おむつの備蓄や汚物を捨てるためのビニール袋（黒色45ℓ）、養生テープも確保しておく。清潔保持のために、使い捨て手袋、ウェットティッシュや手指消毒液も確保しておくといいですね。

排泄物の排出は、凝固剤などで固めてビニール袋に入れ**可燃ごみ**として出して下さい。

2 災害用トイレについて

インターネットで、災害用トイレを検索しますと多くの種類が紹介されています。

メーカー等を特定することは控えますが、あくまでも参考としての紹介です。購入については、各自での判断をお願いします。

(1) 携帯トイレ

流す水が利用できない、トイレの水を流せない時に使用します。水がなくてもいつでも手軽に使えるものでミニ便器、凝固剤や排便袋、ポケットティッシュなどがセットになっているものもあります。

(2) 簡易トイレ

豪雨による浸水などで家庭内に汚水が逆流したり、トイレ空間の安全が確保できない場合に、簡易トイレを設置して、その中に携帯トイレを取り付けて使用します。

